書き抜き読書ノート 2243	2017 年 10 月 29 日

宮崎市定著「現代語訳　論語」岩波現代文庫、岩波書店、2000 年 5 月 16 日刊を読む

学んで思わざれば罔(くら)し、思って学ばざれば殆(あや)うし

１.（１）論語の第31章に「子曰く、学んで思わざれば罔(くら)し、思って学ばざれば殆(あや)うし」という孔子の教えがあります。

（２）その意味は、「子曰く、教わるばかりで自ら思索をしなければ、独創がない。自分で考案するだけで、教えを仰ぐことをしなければ、大きな落とし穴にはまる。」

２.（１）この言葉は、教育、研究の妙諦（みょうてい）を言いあてたもので、千古に通ずる真理である。

（２）教育とは、要するに、全人類が進化してきた現在の水準まで、後生を引き上げてやる手伝いをすることである。

（３）言い換えれば、個体が系統発生を繰り返すに、助力することである。

（４）もしこういう助手の存在意義を軽視して、全く独自の力でやろうとすれば、大きな時間と精力のロスに陥る危険がある。

３.（１）むかしある農村の青年が非常に数学が好きで、小学校を終えた後、農業に従事しながら 10 年かかって数学上の大発見をしたと、町の中学の教諭に報告をしてきた。

（２）何とそれは、2 次方程式の解き方であった。

（３）中学に入って習えば、1 時間ですむことなのだ。

（４）独学でそれを発見する力をもっと有効に他に使えば本当に有益な研究ができたかも知れない。

P 28 ～ 29

＜コメント＞

物事の本質を含め、教えるべきことを、テキストに沿い、どのように効果的に指導するかの重要性を考える契機となるのが、この孔子の教えだと考えます。本日、10 月 29 日（日）に名古屋で開催される、野田塾主催・第 7 回全国模擬授業大会 IN 名古屋にご参加の皆様にお送りしたい、論語の一章です。

― 2017 年 10 月 29 日（日）林明夫―